

【重要文化財（絵画）】

な きりむら お の ちつきょうひつ けんぼんちやくしよく よんきよくびょうぶ つけたり が こう
波切村〈小野竹喬筆／絹本著色 四曲屏風〉1双 附 画稿 10面

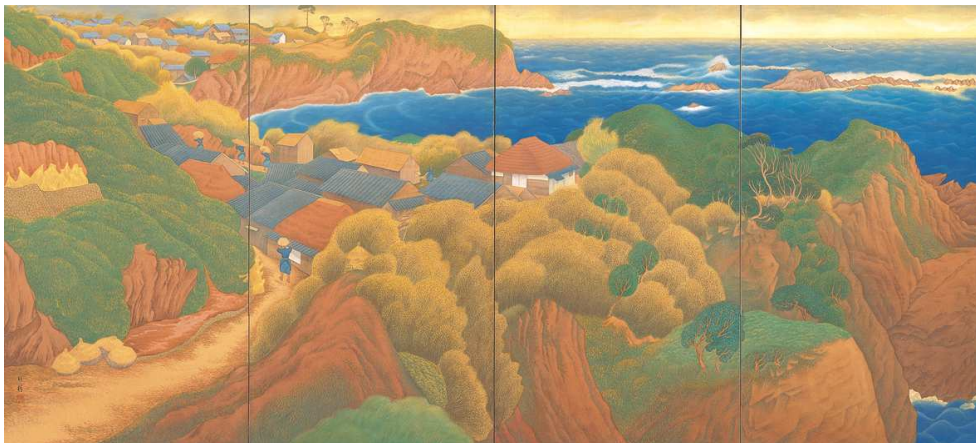
（１）所 有 者 笠岡市（笠岡市中央町１－１）
笠岡市立竹喬美術館保管

（２）法 量 各 縦 167.7 cm 横 368.5 cm

（３）概 要

笠岡市出身の小野竹喬（1889～1979）は近代を代表する日本画家で、風景画で名高い。本作は大正7（1918）年、竹喬ら5名の画家が国画創作協会を結成するにあたり、その第1回展で発表された大作である。竹喬はこの時期、東洋の古美術や西洋近代絵画に学びつつ日本画による風景表現の方向性を探求しており、多くの画家に影響を与えていた。本作は三重県志摩市の波切港を描いたもので、油絵を思わせる明るく雄大な景観描写はその模索の成果として示されたものである。竹喬の自信作であるとともに、記念碑的な作品であり、竹喬のみならず日本画の風景表現の展開を考えるうえで重要な位置を占める。

画稿は、本作を製作するためのスケッチと試作で、附として一体的な保護を図る。



提供：笠岡市立竹喬美術館